

はじめに

中国は古代以来優れた文明を育んできた地域であり、科学技術についても 4 大発明の発祥の地であることなどで、世界最先端を誇っていた。しかし、その後の様々な王朝の興廃や異民族の支配などの混乱もあって、最後の王朝たる清の時代には、ルネサンスや産業革命を経験した西洋列強に、軍事、経済、科学技術などで後塵を拝することになった。欧米流の新しい科学技術を導入する必要性を痛感し、それを進めることとなったのは清朝末期から辛亥革命後であるが、政治的な混乱などから思うように欧米流科学技術の導入は進まなかった。

1949 年の毛沢東率いる中国共産党による中華人民共和国の建国後、軍事、農業、科学技術などが体制維持の観点から国家の優先事項とされた。ただ、経済の停滞や文化大革命中の知識人冷遇・敵視政策により、中国の科学技術は低迷した。1976 年の文革終了後、改革開放政策が進展し経済が拡大するに従い中国の科学技術も発展してきたが、20 世紀末までの成果は十分なものではなかった。

しかし、20 世紀末から今世紀初頭にかけての経済発展の結果、中国の研究開発費や研究者数が急激に増大し、科学装置や施設なども世界最新鋭となっている。かつては欧米や日本に滞在していた優秀な科学者・研究者も、中国の研究開発体制が充実してきたことから続々と帰国した。これを受けて、今世紀に入ってからの科学技術の爆発的な発展には目を見張るものがある。中華人民共和国の建国から 70 年、文化大革命後の改革開放の開始から 40 年強であるにもかかわらず、20 世紀後半から 21 世紀にわたる怒濤のような経済発展を受けて科学技術レベルが急激に伸張し、今や米国と並ぶ科学技術大国への道を歩んでいる。このように短期間でこれほど急激に科学技術の力を伸ばした国は、中国以外にはかつて存在しなかった。それをもたらしたのは科学者・技術者を中心とした中国国民の努力のたまものであるが、それを支えるものとして中国共産党と政府が推し進めた科学技術政策が重要である。とりわけ文革以降の指導者の大半は、技術的なバックグラウンドを有する「テクノクラート」であり、生産現場などを熟知していたことが重要と考えられる。

中国において科学技術政策は、国家における政策の重要な部分である。科学技術政策により科学技術が進展し、ひいては国家の発展と国家の科学技術や産業の競争力の向上に寄与することになる。中華人民共和国が成立して以来、科学技術の進歩とイノベーションを効果的に推進するために、科学技術政策および計画の策定、科学技術への資金投入、科学技術の奨励、科学技術管理体制の強化、税制優遇措置の実施などさまざまな施策を実施してきた。また、科学技術人材育成、科学技術の重点分野化、高等教育機関や研究機関の設置、科学技術インフラの構築、科学技術成果の転化、知的財産権の保護、国際科学技術協力など多くの面において、様々な政策を次々と策定し実施してきた。

本書は、この中国政府による科学技術政策と活動の流れを追いかけ、それがどのような成果をもたらしたかを概観したものである。まず序章において、新中国建国以前の清朝末期から辛亥革命を経て第二次世界大戦終了までの時代を俯瞰し、新中国につながる科学技術活動を述べた。次に、現在の中華人民共和国の時代を6つの時期に分割し、それぞれの政治経済全般の動きと科学技術の政策や活動を述べた。6つの時期とは、建国から文化大革命勃発まで、文化大革命時代、鄧小平時代、江沢民時代、胡錦濤時代、習近平時代である。

それぞれの時期において、政治経済にかかわる歴史をはじめに簡潔に記し、その時期の科学技術の大きな出来事や重要な政策を年代順に列挙し、そのうえでその時期の科学技術政策の特徴や成果を述べ、個々の科学技術政策と活動を記した。この方法により、中国の基本的な政策の流れと個々の分野における具体的な内容が、十分に把握できるようになったと考えている。

この中国の科学技術政策の変遷が我が国の科学技術にどのような影響があるかであるが、まず現在において巨大化した中国の科学技術の実情を知るためには政策の変遷が一つの大きな道具となると考えられる。また、日本は将来にわたり中国の科学技術と協調するか対峙するかは別として、何らかの関係を持つしかないと考えられ、その場合にも中国の科学技術政策の変遷をよく知ることは重要と考えている。読者の率直なご意見をいただきたい。

なお、筆者が特任フェローを兼務する科学技術振興機構中国総合研究・さくらサイエンスセンターは、『中国の科学技術の政策変遷と発展経緯』と題する報告書を作成し、これを2019年3月に公表している。筆者はこの報告書の作成に関与したことにより本書籍の作成について着想を得たこと、さらには同センターから本書籍作成について多大な協力を得たことをここに記し、同センターに深く感謝の意を表したい。

2020年8月

ライフサイエンス振興財団 理事長兼上席研究フェロー
科学技術振興機構中国総合研究・さくらサイエンスセンター 特任フェロー
林 幸秀